

## 【特別支援学校の取組】

### 1



### 自宅等での学習指導・支援

- 学校で落ち着いて過ごすために**いつも子供たちが使用している道具等を持ち帰ってもらい**、自宅でも落ち着いて過ごせるようにした。
- 体育科で用意した「筋トレメニュー」に従い、**自宅で筋トレ**を行うよう家庭に協力を呼び掛けている。
- 最後の登校日に、新型コロナウイルスについて、**絵カード等を作成して説明し、家庭での過ごし方について、決まりやルールについて伝えた**。
- 自習プリント等の課題ができたら、**看護師を通じて提出**してもらい、内容をチェックし次の課題プリントを渡している。（病院内の学級）
- 一日中勉強は難しいので、図書室の本やDVD、ボードゲーム等を貸し出せる体制を作っている。



### 子供の状況確認・把握方法

- 子供によって障害が様々なので、**個に応じた健康観察表や生活日誌を用意し配布**。
- 「健康カード」に毎日の検温と体調を記録し、**健康カードを画像撮影し、メールで学校に送信してもらうよう保護者に依頼**。これをもとに、学校と家庭（本人）と電話にてコミュニケーション。
- 可能な生徒には、**日時を決めて本人から学校に連絡するように約束し、実行している**。心身の健康状態、課題の進捗状況、学校からの連絡等を確認している。
- **特別支援教育コーディネーター**が相談支援事業所等に児童生徒の放課後等デイサービスの利用状況を確認し、必要な家庭には、学校から電話し、居場所確保の状況を確認。
- 全職員を4グループに編成し、自宅や放課後等デイサービス事業所を訪問し、保護者・事業所職員と綿密な状況確認。確認状況は報告書にまとめ、各学部で供覧し、状況に応じて担任による個別対応を実施。

# 各地域における取組事例

## 【特別支援学校の取組】

1



### 特別支援学校において 一時預かりを実施

(預かりの手順、子供の健康管理) (徳島県立特別支援学校の例)

- 一時預かりの希望がある保護者は前日までに学校に電話連絡。
- 保護者は、本人の健康状態や家族の健康状態（発熱や風邪症状の有無）を教頭に報告。また県教委から配布された「健康調査票」を家庭で記録。
- 学校では、保健室で「健康調査票」を確認。
- 登校後と下校前は養護教諭が検温をして教頭に報告。
- 体温や一時預かり中の様子は連絡帳で保護者に報告し、児童生徒の体調を共有。

(学校の感染拡大防止の環境配慮)

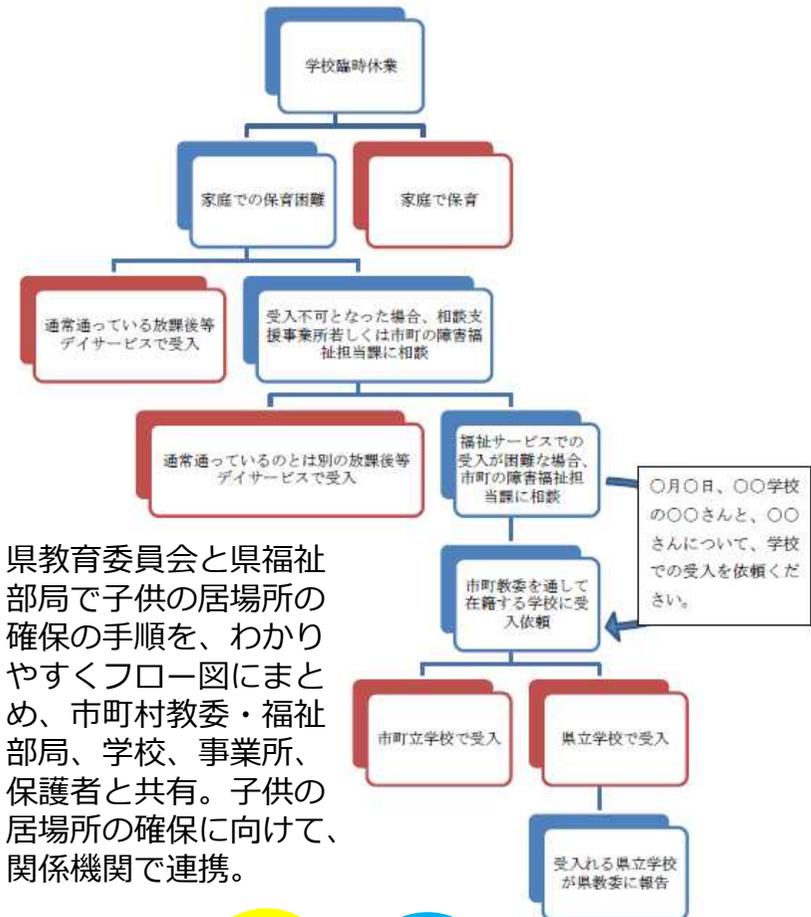
- 児童生徒の活動する部屋はそれぞれ別室。子供同士の接触がないよう最大限配慮。
- 教員は全員出勤前に検温し発熱がないことを確認。
- 児童生徒・指導者ともにマスク着用、手指のアルコール消毒を徹底。感染リスクを避けるために、各学部10名程度の受入とし、児童生徒同士が頻繁に接触しないよう配慮。
- 学級担任が中心となって指導するが、長時間の接触とならないよう、各学部で調整して指導者が偏らないよう配置。

(近隣の障害児施設との連携)

- 隣接する障害児施設の児童生徒に対して、週に3回程度、学校施設を開放することにより健康状態の把握及び心理的な安定を図っている。



### 子供の居場所確保に向けた 関係機関連携 (兵庫県の例)



- 県教育委員会と県福祉部局で子供の居場所の確保の手順を、わかりやすくフロー図にまとめ、市町村教委・福祉部局、学校、事業所、保護者と共有。子供の居場所の確保に向けて、関係機関で連携。

※自治体名等の記載がない取組は、複数類似の取組事例があるもの